

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400697		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム岐阜羽島 (1階)		
所在地	岐阜県羽島市足近町6丁目66番地		
自己評価作成日	平成26年 2月 1日	評価結果市町村受理日	平成26年 4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kanji=true&JigyosvCd=2170400697-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成26年 3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の意思表示が聞かれるフロアーである為、思い思いのペースで生活されており、出来る事を職員と一緒にしたり、毎日の日課を継続して行われている姿が毎日みられる。共同生活の場である為、利用者様同士の関係構築・維持も考え、職員が間に入り、環境を整える場面もある。生活の主体者が利用者様であることを忘れず、本人様の意向に合わせた支援させて頂いている。馴染みの方がホームに足を運んで下さり、囲碁の好きな方と一局打たれる事もある。生活の場である為、一緒に調理をしたり、洗濯物を片付けたりと、趣味活動を、その方の認知症状に合わせ、出来る範囲、出来るように関わりながら支援させて頂いているフロアーである。男性4名・女性4名というユニットなので、自尊心、プライバシーに配慮し、利用者様同士の人間関係にも配慮している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者が交代して2年目のホームである。管理者は、職員の意見を取り入れた新しいホーム作りに励んでおり、家族アンケートでも満足度は向上しており、家族からの信頼も深まっている。囲碁の好きな利用者が地域の方と交流できるように、地域のコミュニティセンターで開催されている囲碁の会に定期的に参加している。喫茶店に出かける機会を増やし、利用者が地域に出かける時間を作っている。回を重ねるうちに、喫茶店の店主とはすっかり顔馴染みの関係となった。ホーム主催の秋祭りを夕方開催にして、家族・地域へ参加を呼び掛けるなど、利用者のために様々な工夫を図っている。今後ますます発展するであろうホームの取り組みを、これからも期待して見守りたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ホームに関わる全ての方が安心できるホーム作り」をホーム理念とし、ボランティアの方に来て頂いたり、お祭りを開催している。自治会活動や地域クラブを活用し、地域交流を密にしている。	利用者が地域交流できるように、地域クラブの活用やホームの秋祭りを地域に還元するなど、ホーム理念の実現に向けて取り組みを進めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同じ町内にある、福祉施設と継続的な関わりができています。地域の方をホームに足を運んで頂けるように活動している。	ホーム主催の秋祭りを、家族や地域住民を招いて夕方に開催した。これにより、利用者・家族と地域との交流も深まりつつある。近隣スーパーの一角を借りて介護相談会を開催し、地域への貢献度も高い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に対し、介護相談会を開催し、介護についてや認知症についてお応えできる場を設けている。今後も、認知症高齢者を地域で支えられるよう発信源となれるように努めたいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・民生委員・区長・家族が主に参加されており、質疑応答時、意見交換ができています。	定期的な運営推進会議の開催が定着している。ホームが地域情報を収集したり、地域住民が行政に介護保険について質問したりする場として活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢福祉課の方とは、密に情報交換ができています。困難事例等の相談もさせて頂いており、高齢福祉課の見解も聞くことができている。協力体制が得られている。	市の担当者とは、困難事例や生活保護など、ホームに関わる様々な相談をしている。運営推進会議への出席もあり、相互に情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、適時研修を実施し、理解はされている。出来る限り玄関の施錠は行わないように、スタッフが2名いる時間帯は開放するようにしている。	ユニット間の施錠ロックは、職員勤務の状況により施錠するなど、段階を経て対応している。また、転倒の危険がある場合には、布団を敷くなど本人に合わせた支援がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回必ず研修を行い、日頃の言葉遣いや介助方法が虐待に繋がりそうでは無いか確認、注意喚起している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行う機会を設けているが、理解や活用までには至っていない。ご家族の方から相談を受けた際は、管理者又は介護支援専門員が対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っている。常日頃起こりうる内容に関しては、特に時間をかけて説明させて頂き、理解・納得して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	社内で「ご家族様アンケート」を毎年実施させて頂いており、運営推進会議時に結果と改善取り組みについて提示させて頂いている。	定期的に家族に向けてホーム便りを発行している。年間行事には積極的に家族の参加を呼び掛けており、家族アンケートは前年度に比べて満足度が向上している。	家族のアンケート結果から見ても、ホームの取り組みが充実したことが読み取れる。管理者・職員のこれまでの努力が形になってきているといえよう。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体会議・ユニット会議を開催している。意見や提案・改善項目を取り上げ、実施している。意見が全員出せるように、心がけている。	定期的な職員会議の中で、職員が提案した内容を検討してホーム運営に活かしている。職員会議を欠席する職員には、事前に意見を聞き、会議録を個人に配布している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて、面談を実施している。雇用形態・就業時間等、職員が働ける環境で就業環境を整備している。評価すべき内容については、評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加できるように努めている。外部研修については、職員個々の力量に合わせ、参加を促すこともある。学んだ事が実践できているか、確認するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内GHとの勉強会に参加し、同業者との交流の機会が設けられている。他事業所の方と話しをする事で、考え方や知識を身につけられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。本人様の要望・家族様の要望を聞き、ホームで安心した生活が送れるように努めている。自宅で行っていたことをホームでも行える環境にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。入居する事で自由が無くなるという印象をもたれている家族様が多い為、外泊や外出に制限が無い事や、出来る限りこれまでの生活を崩されないように、協力して支えていく事をお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。入居の問い合わせの段階で、今現在困っている事は何か尋ねてサービス内容を検討している。内容に応じて協力医療機関と連携についても説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のペースを考えて支援している。生活の場である事から、掃除、調理、洗濯、外出等その方が求めている事を実現するように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事には参加して下さる家族様もみえる為、家族との時間は大切にしている。課題解決の為に、家族様に相談をしながら支援を進めている。外出する際にご家族様に連絡をし、日程を合わせる事もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来て頂けるようにお誘いしたり、正月やお盆などは、自宅に一時的にでも戻って頂けるように働きかけている。	遠方からホームに入居した利用者の友人がホームまで訪ねて来たり、手紙でやり取りをするなど、これまでの付き合いが継続している。利用前のアセスメントでは、家族から馴染みの場所を聞き取っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握している。気の合う方と過ごして頂く時間や共同生活の場でもある為、皆さん揃って活動する時間を設けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	大きな行事を開催する時に、お誘いする事がある。必要に応じて関わりが持てるように今後も努めたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努めている。あくまでも本人様の意向や意思を尊重した対応に努めている。困難な場合においても、これまでの言動から対応する場合もある。	本人が発した言葉の思いを読み取り、介護計画に記載している。職員は、日常の支援から思いを聞き取っているものの、記録に残し情報共有している事例は少ない。	日常の支援の中でつかんだ思いを、介護記録に残して職員間で共有すれば、さらに支援の幅が広がるであろう。今後の充実を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。昔、よく使っていたものや、なじみの物、好きな物を用意し、違和感無く生活して頂けるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。利用者様のペースで生活して頂き、利用者様の出来る事を見極めながら介助を進めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成している。必要に応じて、往診時に事業所に来て頂き、医療面についても医師から説明を聞ける場面を設けている。ケアが画一的にならないように努めている。	急な体調変化や介護度の変化があった際には、家族と相談してケアプランを再作成している。家族の参加を得てサービス担当者会議を開き、今後の支援内容について話し合った事例がある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の状況に合わせて介護計画の見直しを行っている。身体状況や認知症状について、日頃の申し送り等で共有と把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時必要な支援については、本人・家族様の意向に合わせ、医療従事者に相談し、ホームで行える支援を提案し、柔軟な対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様の要望にあわせて地域資源の活用をしている。心身の力を発揮するところには至っていないが、馴染みの場所に訪れ、今後も利用者様の生活を支えて生きたいと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。入居時に、かかりつけ医の往診が可能であれば主治医として頂いて良いと説明させて頂いている。必要に応じて、主治医と家族が直接話しができるように時間調整をしている。	利用契約時に、ホーム協力医の説明をしてかかりつけ医の選択ができるように支援している。「協力医の往診があり安心」という家族の意向があり、協力医による往診を受けている利用者がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。日頃から看護師に医療面については報告・確認し、対応を行っている。今後も、介護職が必要な知識を身につけられるように、連携を密にしていきたい。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	努めている。面会させて頂き、本人様と会話したり、病院関係者から入院中の状況を聞くようにしている。理学療法士と連携する機会があり、介護職員が訪問し、説明を受ける場面を設ける事ができた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様・家族様の意向を確認した上で、ホームとして対応できる状態であるか、医療関係者の協力体制が整っているか、家族様の協力が得られるかを総合的に考え、話し合いの場を何度か設けるようにしている。	利用契約時に、法人の終末期の介護方針について家族に向けて説明している。その中で、「重度化・終末期の生活を支えるためには家族の協力が必要」ということを家族へ伝えている。その際に家族の意向を聞き取り、介護計画に記載している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応について研修を行ったり、吸引ノズルやAEDの使用法、心肺蘇生の講習を受けている。看護師に利用者様の急変時の観察ポイントを確認し、対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難方法を職員は身につけており、連絡体制も整っている。地域の方に参加して頂く機会もあった。町内の避難場所へ行けない場合は、事業所を活用して頂く提案もさせて頂いている。	避難時に対応すべく、利用者の個別の情報を記載した避難カードを作成して、火災通報機の横に設置している。避難訓練では、それを実際に使用して訓練している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	否定的な声かけや、指示語にならないように常に心がけている。意思がはっきりされている方が多い為、自尊心を傷つけないように配慮している。	利用者本人の生活スタイルを大切にした支援を実践している。利用者が好きなことや興味のあることを取り入れ、ホームでの生活が安定・安心できるように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるように声かけをしている。利用者様の中には、何もしたくないといわれる方もみえるが、落ち着いた雰囲気でのコミュニケーションがとれるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の状態に合わせて対応をしている。利用者様の動きに合わせて職員が動くように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に女性の方に対して、好みの色合いのものを使用して頂けるように心がけている。身なりに不快感がない様に働きかけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に出来る事は、テーブルを使用し実施している。事業所の畑で野菜を作る事もあり、収穫もしている。	食事についての職員研修を実施して、おいしい食事の提供に向けて取り組んでいる。「うなぎが食べたい」という声を聞き、誰もが食べることができるような作り方を調べ、職員が調理実習を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べ物の好みや飲み物の好みに合わせ、可能な限り提供している。栄養バランスは、調理スタッフが管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きをして頂くようにしている。ご自分で出来る範囲やって頂き、仕上げさせて頂いている方もみえる。必要に応じて、歯科往診の依頼をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が多くなった方もみえる。意思表示を見逃さず対応を継続したいと考えている。	利用者の行動や様子を観察して、適切にトイレ誘導を行っている。排泄内容は介護記録に記録しているものの、失禁や便秘などの対応に向けた情報の分析事例は少ない。	職員個々でつかんでいる排泄支援のコツを、介護記録に記載して情報共有する仕組みを活用すれば、ホーム全体の質の向上につながるであろう。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動の働きかけを行い、便秘にならないように努めている。食事・水分の量を把握し、必要に応じて医師の指示を仰いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴ができる状況にしており、希望合わせた入浴支援をしている。入浴時は、ゆっくりできるように心がけている。	プライバシーに配慮して、陰部にタオルをかけるなど羞恥心に対する配慮がある。異性介助を拒否する利用者には、一度本人に声をかけて同意の確認を取った上で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の状態に合わせて、休んで頂いている。体調がいつもと違うと感じた時は、声かけて休んで頂くこともある。身体への負担がないように対応させて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容をすぐに確認できる状態にある。薬の変更時は、看護師とも協力し、本人様の状態確認をしている。必要に応じて、主治医と薬の見直しを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方できる事は、行って頂けるように環境を整備させて頂いている。また、気分転換できるように、嗜好品を用意し、楽しむことができる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出したいという希望が少ない状況ではあるが、お誘いする事で、戸外に出かけられるように支援している。ご家族様も協力して頂けるともあり、事業所内で完結しないように努めている。	近所の喫茶店に出かける日を作っており、利用者の息抜きの時間になっている。喫茶店の店主とも顔馴染みとなり、良好な関係を構築している。地域のコミュニティセンターの囲碁会に参加している利用者がいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	貴重品の持ち込みを契約上、禁止とさせて頂いているが、パンの購入の時や、買い物に出掛けられた時に、支払いから受け取りまで行って頂く場面を作れるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望にあわせ、電話をかけたリ、手紙をFAXで送る機会もある。家族との繋がりを大切に頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりと過ごせるように、物の配置を考え、対応させて頂いている。また、障害となるものが無いように配置を考えて対応している。	ホーム玄関の靴箱や掲示板を作り直し、明るい雰囲気を作っている。廊下には、職員の研修報告や利用者の日常の様子を伝える写真を掲示している。空きスペースを活用して、利用者・職員が休憩できる場所を設けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーを利用して、利用者様同士が並んで会話ができるように、自由に使っている。車椅子で移動される方に対しては、孤立しないように、皆様の顔が見れる場所で過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものや写真を置いたり、好きな色を取り入れて頂いている。利用者様のADLの変化に合わせて、居室内の配置等を変更させて、リスク管理もしている。	利用者の趣味に合わせて、家族が居室を飾りつけたり、本人が部屋の配置を考えるなど、利用者が主体となった支援がある。パソコンの持ち込みや、趣味の道具の持ち込みもあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内の物については、必要以上に場所の変更をせず、利用者様が使用しやすい状態にしている。安全に使用して頂けるように、職員が確認できるだけの量を用意させて頂いている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400697		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム岐阜羽島 (2階)		
所在地	岐阜県羽島市足近町6丁目66番地		
自己評価作成日	平成26年 2月 1日	評価結果市町村受理日	平成26年 4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2170400697-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市市賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成26年 3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

身体介助を必要とされる方が多いユニットではあるが、その方に意向を尊重した対応ができるように、職員一人ひとりが意識をしている。また、自立されている方もみえる為、関わり不足にならないように、個別支援ができるように、利用者様と予定をあわせて対応させて頂いている。外出が困難な方もみえ、ご家族の方に協力して頂き、ユニットと一緒に食事をして頂く機会を設けさせて頂いている。囲碁が趣味な方がみえ、他利用者様の対局のみならず、地域の囲碁クラブに参加させて頂き、毎月参加できるように働きかけている。その方らしい生活が実現できるように、介護の質の向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ホームに関わる全ての方が安心できるホーム作り」をホーム理念とし、ボランティアの方に来て頂いたり、お祭りを開催している。自治会活動や地域クラブを活用し、地域交流を密にしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同じ町内にある、福祉施設と継続的な関わりができている。地域の方をホームに足を運んで頂けるように活動している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に対し、介護相談会を開催し、介護についてや認知症についてお応えできる場を設けている。今後も、認知症高齢者を地域で支えられるよう発信源となれるように努めたいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・民生委員・区長・家族が主に参加されており、質疑応答時、意見交換ができている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢福祉課の方とは、密に情報交換ができている。困難事例等の相談もさせて頂いており、高齢福祉課の見解も聞くことができおり、協力体制が得られている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、適時研修を実施し、理解はされている。出来る限り玄関の施錠は行わないように、スタッフが2名いる時間帯は開放するようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回必ず研修を行い、日頃の言葉遣いや介助方法が虐待に繋がらぬよう無いか確認、注意喚起している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行う機会を設けているが、理解や活用までには至っていない。ご家族の方から相談を受けた際は、管理者又は介護支援専門員が対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っている。常日頃起こりうる内容に関しては、特に時間をかけて説明させて頂き、理解・納得して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	社内で「ご家族様アンケート」を毎年実施させて頂いており、運営推進会議時に結果と改善取り組みについて提示させて頂いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体会議・ユニット会議を開催している。意見や提案・改善項目を取り上げ、実施している。意見が全員出せるように、心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて、面談を実施している。雇用形態・就業時間等、職員が働ける環境で就業環境を整備している。評価すべき内容については、評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加できるように努めている。外部研修については、職員個々の力量に合わせ、参加を促すこともある。学んだ事が実践できているか、確認するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内GHとの勉強会に参加し、同業者との交流の機会が設けられている。他事業所の方と話しをする事で、考え方や知識を身につけられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。本人様の要望・家族様の要望を聞き、ホームで安心した生活が送れるように努めている。自宅で行っていたことをホームでも行える環境にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。入居する事で自由が無くなるという印象をもたれている家族様が多い為、外泊や外出に制限が無い事や、出来る限りこれまでの生活を崩されないように、協力して支えていく事をお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。入居の問い合わせの段階で、今現在困っている事は何か尋ねてサービス内容を検討している。内容に応じて協力医療機関と連携についても説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のペースを考えて支援している。生活の場である事から、掃除、調理、洗濯、外出等その方が求めている事を実現するように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事には参加して下さる家族様もみえる為、家族との時間は大切にしている。課題解決の為に、家族様に相談しながら支援を進めている。外出する際にご家族様に連絡をし、日程を合わせる事もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来て頂けるようにお誘いしたり、正月やお盆などは、自宅に一時的にでも戻って頂けるように働きかけている。馴染みの方との時間を大切にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握している。気の合う方と過ごして頂く時間や共同生活の場でもある為、皆さん揃って活動する時間を設けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	大きな行事を開催する時に、お誘いする事がある。必要に応じて関わりが持てるように今後も努めたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努めている。あくまでも本人様の意向や意思を尊重した対応に努めている。困難な場合においても、これまでの言動から対応する場合もある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。昔、よく使っていたものや、なじみの物、好きな物を用意し、違和感無く生活して頂けるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。利用者様のペースで生活して頂き、利用者様の出来る事を見極めながら介助を進めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成している。必要に応じて、往診時に事業所に来て頂き、医療面についても医師から説明を聞ける場面を設けている。ケアが画一的にならないように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の状況に合わせて介護計画の見直しを行っている。身体状況や認知症状について、日頃の申し送り等で共有と把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時必要な支援については、本人・家族様の意向に合わせ、医療従事者に相談し、ホームで行える支援を提案し、柔軟な対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様の要望にあわせて地域資源の活用をしている。心身の力を発揮するところには至っていないが、馴染みの場所に訪れ、今後も利用者様の生活を支えて生きたいと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。入居時に、かかりつけ医の往診が可能であれば主治医として頂いて良いと説明させて頂いている。必要に応じて、主治医と家族が直接話しができるように時間調整をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。日頃から看護師に医療面については報告・確認し、対応を行っている。今後も、介護職が必要な知識を身につけられるように、連携を密にしていきたい。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	努めている。面会させて頂き、本人様と会話したり、病院関係者から入院中の状況を聞くようにしている。理学療法士と連携する機会があり、介護職員が訪問し、説明を受ける場面を設ける事ができた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様・家族様の意向を確認した上で、ホームとして対応できる状態であるか、医療関係者の協力体制が整っているか、家族様の協力が得られるかを総合的に考え、話し合いの場を何度か設けるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応について研修を行ったり、吸引ノズルやAEDの使用法、心肺蘇生の講習を受けている。看護師に利用者様の急変時の観察ポイントを確認し、対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難方法を職員は身につけており、連絡体制も整っている。地域の方に参加して頂く機会もあった。町内の避難場所へ行けない場合は、事業所を活用して頂く提案もさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護者都合とならないように、その方の様子を伺いながら、介助をさせて頂いている。ご自分の意思がはっきりされている方は、本人様のお話を傾聴し、実現できるように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるように声をかけている。利用者様の中には、何もしたくないと言われる方もみえるが、落ち着いた雰囲気でのコミュニケーションがとれるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の状態に合わせて対応をしている。利用者様の動きに合わせて職員が動くように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の色合いなど配慮し、その方らしい身だしなみとなるように心がけている。選択できるように声をかけて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に出来る事は、テーブルを使用し実施している。事業所の畑で野菜を作る事もあり、収穫もしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べ物の好みや飲み物の好みに合わせ、可能な限り提供している。栄養バランスは、調理スタッフが管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きをして頂くようにしている。ご自分で出来る範囲やっ頂き、仕上げさせて頂いている方もみえる。必要に応じて、歯科往診の依頼をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人様に確認し、誘導させて頂く事で、トイレでの排泄ができるように努めている。介助が必要な方に対しても2名介助で対応させて頂いている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動の働きかけを行い、便秘にならないように努めている。食事・水分の量を把握し、必要に応じて医師の指示を仰いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴ができる状況にしており、希望合わせた入浴支援をしている。入浴時は、ゆっくりできるように心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の状態に合わせて、休んで頂いている。体調がいつもと違うと感じた時は、声かけて休んでも頂くこともある。身体への負担がないように対応させて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容をすぐに確認できる状態にある。薬の変更時は、看護師とも協力し、本人様の状態確認をしている。必要に応じて、主治医と薬の見直しを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方できる事は、行って頂けるように環境を整備させて頂いている。また、気分転換できるように、嗜好品を用意し、楽しむことができる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望にあわせて外出支援をさせて頂いている。毎月外食に出かけられる方、趣味活動に出かけられる方も見える。屋外に出て気分転換できるように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	貴重品の持ち込みを契約上、禁止とさせて頂いているが、パンの購入の時や、買い物に出掛けられた時に、支払いから受け取りまで行って頂く場面を作れるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望にあわせ、電話をかけたリ、手紙をFAXで送る機会もある。家族との繋がりを大切に頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりと過ごせるように、物の配置を考え、対応させて頂いている。また、障害となるものが無いように配置を考えて対応している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーを利用して、利用者様同士が並んで会話ができるように、自由にさせて頂いている。車椅子で移動される方に対しては、孤立しないように、皆様の顔が見れる場所で過ごさせて頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものや写真を置いたり、好きな色を取り入れて頂いている。利用者様のADLの変化に合わせて、居室内の配置等を変更させて、リスク管理もしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内の物については、必要以上に場所の変更をせず、利用者様が使用しやすい状態にしている。安全に使用して頂けるように、職員が確認できるだけの量を用意させて頂いている。		